

# 〔視点1〕身に付けさせたい力を明確にした単元づくり

## 1 単元（題材）を見通して、身に付けさせたい力を明確にし、評価規準を設定する。

### ◆ 単元を見通した構想

学習指導要領に示されている各教科等の目標や内容は、1単位時間の授業で実現できるものではありません。単元（題材）のまとまりを見通して単元構想をすることが重要です。

### ◆ 身に付けさせたい力の明確化と評価規準の設定

単元構想では、育成を目指す資質・能力の3つの柱に基づき、単元全体を通して生徒に身に付けさせたい力を明確にし、それらが実現された具体的な姿を「評価規準」として設定する必要があります。

#### 【POINT】

- ・ 授業を行うときは、ねらいが明確であること、その実現のための工夫があることが大切です。
- ・ 「活動ありき」ではなく、授業のねらいをより明確にし、評価規準を踏まえて授業を組み立てることにより、指導と評価の一体化を図ります。

## 単元づくりの手順

### 1 身に付けさせたい力の明確化

【単元の評価規準の設定】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○○○…	○○○…	○○○…

### 2 身に付けさせたい力を育む学習活動のバランスのよい位置付け

【単元の指導計画】

	主な学習活動	評価規準			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	○○○…	○○○…	○○○…	○○○…	○○○…
2	○○○…	○○○…	○○○…	○○○…	○○○…
3	○○○…	○○○…	○○○…	○○○…	○○○…

### 3 単元全体を通して、観点ごとの学習状況の見取りと、指導の改善

## 2 評価規準に応じた学習活動を、単元全体を通してバランスよく位置付ける。

### ◆ 学びの過程の構築

単元全体を通して、身に付けさせたい力を育成するために、生徒が学びを積み重ねていく過程を構築することが重要です。

単元全体の中で、それぞれの授業がどのような位置付けにすると効果的か、授業のつながりを考え、観点ごとの評価規準とそれを達成するための学習活動のバランスを考えることが大切です。

#### 【POINT】

- ・ 資質・能力に基づいた評価規準を達成するために、指導計画の組み立てを工夫します。

【「主体的に学習に取り組む態度」の位置付けの例】

単元導入と終末に位置付け、単元全体を通じて高める。

【「知識・技能」の位置付けの例】

小単元などのまとまりで位置付け、確実な定着を図る。

【「思考・判断・表現」の設定例】

知識や技能の習得後に位置付け、それらの活用を図る。

## 3 生徒の学習状況を評価規準に基づいて見取る。

### ◆ 評価規準の明確化

評価の考え方は、学習指導要領に基づき、全教職員で共通理解を図り、評価の内容や方法については、学年などで検討することにより評価の妥当性と信頼性が高まります。

一つ一つの授業で評価規準を設定し、ねらいがはっきりしていることは、子どもにとっても、学習活動の意味がよく分かり、学習意欲も高まります。

#### 【POINT】

- ・ 単元全体を見通して、学習のねらいを明確にし、1単位時間のねらいとまとめ（振り返り）を対応させた板書計画を立て、授業後に自らの指導を振り返ります。
- ・ 定期テストは「指導」と「評価」をつなぐものです。評価の観点を踏まえた指導をし、テストの問題が評価規準を踏まえたものになっているか、吟味することが大切です。